

# めだかの学校だより

発行・おもしろ人立めだかの学校 引佐郡引佐町奥山1737-286



▲たわわに実ったミカン園に都会の人々が訪れる

## 日本一小さな村から大きな発信

第13回校長 深澤明男

「次回の校長お願いします」の声に二つ返事で校長という大役を引き受けてしまったが、今さらながら、コトの重大さに気付き戸惑いをかくし切れないでいます。しかし、教頭先生、用務員さんがとびきりお力のある方々で安心しました。

私は二十三年余りの長い間、由比町と豊岡村のミカン園を片道100キロ余往復しながら、「通勤農業」をしてきましたが、すばらしい豊岡村を第二の故郷にすることに決め、八年前に一家六人で豊岡村民となりました。

さて、話は変わりますが、「豊岡とれたて元気村」という村があることをご存知ですか？ それは会員二十一名で、昨年十一月に開村、できたてほやほやの村です。その小さな村の村長をおだてに乗り、やらせていただいています。

現在の複雑な農業の流通機構では、消費者と生産者の対話がなく一方通行のため、この流通機構を変えることにより相互の顔が見える農業をしたい、消費者のみなさまへ新鮮で、安全で、一番おいしい“旬”を提供することやその農産物が生産されている畑の土を素手でつかんでいただきたい。また村の豊かな自然を肌で感じ、それと同時に二十一名の農業者の農業に対する熱い情熱やあたたかい人間性に触れてもらいたい、このような思いからこの「とれたて元気村」が生まれたのです。

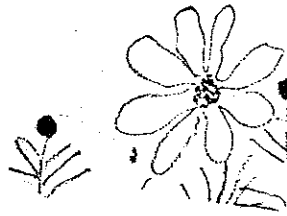
めだかの学校で毎回多くの人々と出会い、眠っていた私の頭の中に新しい刺激を与えてくれます。朝まで語り合っても寝不足を少しも感じることなく、すがすがしい朝を迎えることができます。

その様子を村に帰って仲間たちに伝えます。村の面々も新しい刺激に触れて動き出す。その感動が次回のめだかの学校へ登校するエネルギーとなって私を駆り立てるのです。

(豊岡村とれたて元気村村長)

# めだかの生徒からの伝言

## めだかの学校に望むこと



三ヶ月を心待ちしているのですが、毎回三ヶ月後の金曜日は行事が重なり、登校できないのが残念です。何とか都合をつけて出席してまいりたいと思いますのでどうか落第だけはさせないでください！

(特別養護老人ホームしあわせの園・高柳明)

できるだけ幅の広い「奇人」「変人」も含めた人たちの授業を。

いや、もうすでにそういう人たちが集まっているのかな？

鍼灸師・別所慶則

異人種、異能人交流の本領を発揮しながら、ほぼ定着してきた感あり。特に例会を通じて得られた人的交流を栄養素として温められた個々関係の中に生かされ思わぬ効果を生み出しているようです。

それぞれの生徒の個別の領域にどんな形で生かされ、深掘りされているか、それへの検証もまた必要でしょうか。例会(授業)のプログラムの中にその類の目立つ実績報告を組み入れてみるのもよいのではないのでしょうか。

三遠南信都市研究会・松田不秋

従来のやり方を踏襲してほしい。

年4回、3ヶ月ごとに「〇〇の集い」「料理の集い」「魚釣りの集い」「トークの集い」とか、開学の間に開催したらどうか希望します。

開校を金(夜)→土(夜)に変更していただくとありがたいです。

高校教師・斎藤昭

いつまでも、どこでも、だれとでも出会いの場であり続けたい。

今までのめだかのきまりを守りつつも、常に前向きに取り組むことが大切。

教育公務員・石野省三

めだかの学校は大変素晴らしいことをやっていると思います。このままのペースを継続していくことは大変だろうと思いますが、やがて全国レベルの学校になることうけあいです。

春野町観光協会・追平典義

大きくなってもメダカはメダカでいたいね。小田原方面にめだかの学校の歌詞の里があるとか？

地方公務員・水野忠義

多くの方と出逢い、そして明日へのエネルギーを感じるような、前向きの姿勢を感じられるような、豊かなひとときとなることを……。

画廊経営・藤城佐和子

テーマを決めて各地域の文化の違いを知りたいので希望者に書いていただいたりすれば面白い文集が出ず中味のある身近なものになると思います。

長野県天竜村生活改善グループ・関京子

1. 飛び入り生徒を入れないこと(特特生扱いなど検討)
2. 給食会場が狭く、話し合いに支障がある。
3. 文化祭の計画的実施。
4. めだか講師一覧表の作成(対外的なもの)。

引佐赤十字病院・伊藤茂男

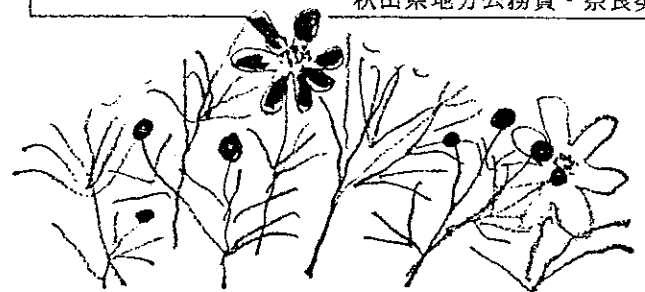
一度は元気に登校しようと思っっているのですが、なかなか足が動いてくれません！「めだかの学校だより」は楽しく読ませて頂いております。自称「秋田のPTA」ですので、そのうちに学校参観にでもと思っるところです。学校は登校拒否児として出席のときは連絡して行きますので宜しく。

秋田県地方公務員・奈良努

授業の地を移動する考えはどうでしょうか？

例えば豊岡村だったり、春野町だったり……。

農業・芋博士 伊藤英雄



◇めだかは小グループが似合う  
夏まつり中、八月四日午前八時十分、J  
R浜松駅に集まっためだかの面々、オス四

物という淡水魚のめだかにとってはどえらい  
いごちそう、どのめだか達も生の桜えびに  
まっ先に飛びついた。めだかを釣るには桜

年、講談社の野間社長が買われたもので、  
現在は野間別荘として管理されている。一  
般にはほとんど公開されていないが、今回

(参加者)野末かつ子、上嶋裕志、加藤修  
一、小栗茂、深澤明男、西川信義、湯浅

夏まつ只中、八月四日午前八時十分、JR浜松駅に集まっためだかの面々、オス四尾、メス一尾、二百尾の中から選ばれた(?)元氣印のめだか達。途中、袋井、藤枝で仲間が乗車、定刻の九時五十分由比駅到着。マイカー参加の二尾を加えて総勢九尾のめだか達は元氣いっぱい出迎えのマイクログラスへ乗車。めだか仲間、天野、柚木、服部さんや町おこしグループの皆さんの案内でめだかの遠足のスタートだ。

◇めだかが歩く由比の宿  
マイクログラスが軒に接触しそうな旧東海道・由比の宿は昔の面影が残る家並みが続く。さつた峠入口のところに望嶽亭藤屋がある。ここは明治元年、山岡鉄舟が官軍に追われて身を隠したという歴史の宿、鉄舟が置いていったといわれるピストルも所蔵されている。またこの主人の弥次喜多の絵はすばらしいものである。藤屋から五百メートル程町並みを歩く。紺がすりの娘さんとお会いする由比の宿である。

◇めだかのえさは桜えび  
由比の目玉施設東海道広重美術館はふるさと創生事業として由比本陣跡へ建てられたもの、広重の作品が展示されている。行政主導でつくられたためか、若干面々は否めないが、観光資源の少ない町としてはこだわりの超目玉施設といえよう。由比には縁のない広重を東海道と結び付け、宿場由比本陣を活かした美術館はまさにアイデアの賜物といえよう。

美術館の感動から開放されたとたん空腹に襲われる。待望の昼食は由比桜えび館の「駿河御膳」、生桜えび、えび天、桜えびの炊き込みご飯のほか、すべて駿河湾の海産物という淡水魚のめだかにとってはとてはえらまいごそう、どのめだか達も生の桜えびにまつ先に飛びついた。めだかを釣るには桜えびに限る……

◇妻木戸からそこのぞくめだか達  
午後は蒲原の宿へ。「蒲原宿の会」のご婦人が出迎えてくれる。どんな旅でも旅先で温かく迎えてくれるのは本当にうれしい。役場前で下車。少し歩くと「右手がニシキドです」との説明、ニシキドって錦戸? キン

キラキンの戸だろうとパンフレットを見ると「西木戸」だった。宿場以外は大名も平民も宿泊できない掟があり、出入りの人々をチェックするため町角に木戸を設けたといふことだ。さしづめ、めだかの面々は毎夜門限に遅れて木戸の外で朝まで……? 木戸のない今の世に感謝しつつ町並みウォッチングを進める。総ヶヤキづくりの家、二尺角の大黒柱の家、「蒲原宿の会」の皆さんの説明で、歴史の重みをひしひしと感じる。どの家も間口が狭く、奥行きが長いのが特徴。これは当時間口の長さにより課税されたための庶民の知恵。表の道路は武士の往来が多いので、家の裏に細い道路が走っている。これを背戸道と称していた。照りつける夏日をまともに受けながら、めだかたちのぞき行脚は続く。公民館での冷たい麦茶とアイスクリームはまさに砂漠の中のオアシスであった。

◇うらん、古籠荘：めだかの夢の夢  
富士川の西岸、富士を仰ぎ、伊豆の海を望む東海のネオバロック建築を誇る古籠荘は明治三十九年、当時の田中宮内大臣の別邸として建てられたもので、一万六千坪の敷地に九百四十坪の建物が回廊で結ばれ、迎賓館としても利用されていた。昭和十一

現在には野間別荘として管理されている。一般にはほとんど公開されていないが、今回富士川町の特別の配慮でめだか達がのぞくことを許された。スケール、材料、調度品いずれを拝見しても驚くばかり、ドイツ製の電気器具、うるし塗の便器、建築物と同等の価値を持つ仏像一体と二本の掛軸等々、馬に念仏のめだか達もさすがにうらん。しかし、田中伯爵の勉強部屋は質素そのもの、木製の机がひとつ置かれていただけ。現代の子供や親たちに必見の部屋でした。この古籠荘は日本の資産としていつまでも残してほしい文化財といえよう。それにしてもめだかにとっては夢のまた夢の世界に身を置いた一時間であった。

◇出合いに感激、歴史に感動  
ログハウスのおしゃれな店夢工房天野さんの店でおいしいアイスコーヒの接待を受け、元氣を取り戻しためだかの一行は最終コース富士川町岩淵の町並みへ……。ここは宿場町ではないが、富士川を利用した物流の拠点として賑わった町である。大名も旅人も内密で宿をとっていたといわれる。その名残が脇本陣である。またここには原形をそのままに一里塚が残っている。大塚が茂り、旅人の休みどころの面影が忍ばれる。この一里塚で今日の駿河慢遊の打ち上げだ。駿河のめだかの皆さん、「蒲原宿の会」の方々、町づくりボランティア、そして富士川町文化財保護委員の池谷さん、渡辺さんありがとうございました。

旅には一ヶ月の旅もあれば、二泊三日の旅もある。今日の旅は日帰りだったが「旅は道連れ、世は情け」の言葉どおり、楽しいめだかの勉強とおあそびの一日であった。

旅には一ヶ月の旅もあれば、二泊三日の旅もある。今日の旅は日帰りだったが「旅は道連れ、世は情け」の言葉どおり、楽しいめだかの勉強とおあそびの一日であった。



遠足に行きました

旅歩記「庵原慢遊」

言い出しっぺ・伊藤茂男

(参加者)野末かつ子、上嶋裕志、加藤修一、小栗茂、深澤明男、西川信義、湯浅明美とご主人、伊藤茂男  
(地元)天野恵美子、柚木恵美子、服部竜

開校通知

第13回めだかの学校を開校するので、出席下さい。

第13回校長 深澤明男

●期日 平成8年9月6日(金)

●今回の職員

校長 深澤明男(農業⑤豊岡農場)

教頭 右崎容子(でんでん虫の会)

用務員 杉浦穎祐(奥山高原支配人)

●今回の時間割

PM6:20 予鈴  進行: 教頭

6:30 四期入校式

校歌斉唱

6:35 校長あいさつ

6:40 来賓あいさつ 長山芳正(引佐町長)

6:50 新入生紹介

7:00 特別講話「通りゃんせ」(絵馬と私)

安田識人(やばのりひと)

7:40 「建学の心」唱和

言い出しっぺ・武井紀夫

7:50 事務局よりのお知らせ

8:00 給食の時間(野外) 進行: 用務員

蚊と戦いながらのおいしい給食

10:20 次回校長・教頭・用務員指名 進行: 校長

10:30 閉校

四期入校の手続きを!

めだかの学校もこの9月から四期に入ります。生徒のみなさん、継続手続き、入校手続きをしましたか?

この手続きをおこたると生徒の資格を失います。申込書と共に入校金(1,000円)を納入しないと自動的に名簿から削除、除籍されます。8月末日までに手続きしてください。

めだかの学校へ入校するには

入校するには在校する生徒2名以上の推薦を受けなければ入校できません。また、入校した生徒が不穏なる場合は本人はむろん、推薦者2名も退学処分を受けることがあります。

再びめだかの生徒溝口久より便り

8月29日(木)蒲原町主催のまちづくり講座その3で「ゆふいんのまちづくり」話: 亀の井別荘主人兼由布院観光協会会長の中谷健太郎

「イタリアの技と暮らしをみる研修報告」話: 溝口久由布院観光協会事務局長の講演会があります。問い合わせは蒲原町企画課片瀬さん(こちらめだかの生徒)

電話0543-85-3111

講話者・安田識人プロフィール

- ・大正8年 引佐郡鎮玉村(現引佐町)に生まれる
- ・愛知県東邦商業学校時代野球選手として2回甲子園に出場し、(1回は準優勝)活躍する。
- ・戦後8年間母校で教鞭をとるかたわら野球部の監督をつとめる。
- ・退職後、絵馬作り一筋30余年、伊勢神宮をはじめ全国の社寺300余ヶ所に絵馬を納める。今日の絵馬ブームを創る絵馬の第一人者
- ・日本絵馬文化協会理事長、名古屋市在住

おもしろ人立めだかの学校建学のこころ

●建学のこころ

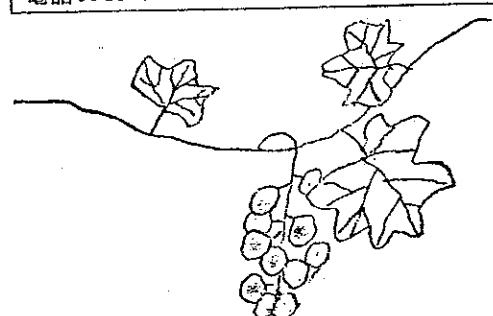
人や自然の心を大切に作る人間であるためには、時には先生になり、時には生徒になっておもしろおかしく学ぶということが建学の精神。

「もう一人の私」発見、「もう一人のあなた」発掘により、ともに学ぶ喜びを享受し、人生を楽しくやっていくことが目的である。

●基本に流れる精神

- ・学校の設置母体はあくまでもおもしろ

人立。好奇心と遊び心、そして挑戦が「めだかの学校」のコンセプトである。先生も生徒も上下関係を意識しないで、互いの人格や技量を尊敬していくためには、あっけらかんとした楽天的なプラス志向の校風が漂っているということが肝要である。のんきな顔をして、しなやかに、けれどしたたかにふるまう先生と生徒の出会いがこの学校のモットーである。



校長訓話

日本一小さな村から大きな発信

第3回校長 深澤明男